

日 愛 媛 新 聞

「千年に一度」どう対応

土木学会が
松山シンポ 津波の防護策議論

港湾施設などの海洋土木の専門家による「海洋開発シンポジウム」が30日、松山市のひめぎんホールで始まった。同日は緊急の特別セッションとして、土木学会や国土交通省の研究機関が東日本大震災の被災地で行った港湾施設を中心とする現地調査の内容を報告した。1日まで。

PC・携帯
動画ニュース

全国の建設業者や自治体、研究者らでつくる土木学会海洋開発委員会が主催。特別セッションでは、国交省の港湾空港技術研究所アジア・太平洋沿岸防災研究センターの辰巳大介研究官や、早稲田大理工学術院教授で同委員会の柴山知也委員長ら3人の専門家が、港湾施設の津波被害を中心に報告した。

波堤が「6割程度の津波の軽減に役立った」と説明。「今後は100年に一度、千年に一度の2段階のレベルで防護策を考える必要がある」と強調した。



洋に関わる約200の論文が発表され、1日は松山港周辺の施設を

視察する予定。

(向井秀則)

東日本大震災による港湾施設などへの津波被害が報告されたシンポジウム＝30日午前、ひめぎんホール